

# 平成29年度 上富良野町の全国体力・運動能力等調査結果について

平成30年3月1日

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

- (1) 子供の体力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力の向上に係る施策の結果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善等に役立てる。

### 2 調査対象学年

町内小学校第5学年、中学校第2学年の全児童生徒

### 3 調査事項

#### (1) 実技に関する調査

小学校	中学校
握力、上体起こし、長座体前屈、 反復横とび、20mシャトルラン、 50m走、立ち幅跳び、 ソフトボール投げ	握力、上体起こし、長座体前屈、 反復横とび、20mシャトルラン、 50m走、立ち幅跳び、 ハンドボール投げ

#### (2) 質問紙調査 運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

### 4 調査実施日 平成29年4月から7月末まで

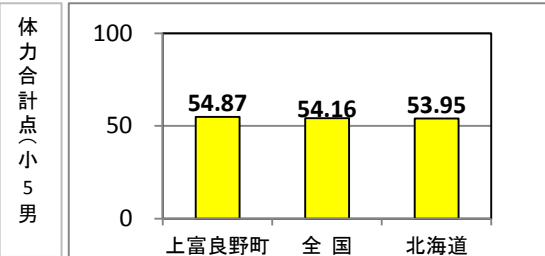
### 5 調査を実施した全体の状況

	参加学校数	参加児童生徒数
小学校調査	19,915校	1,063,693人
中学校調査	10,384校	1,022,561人
上富良野町	小3校、中1校	小101人、中94人

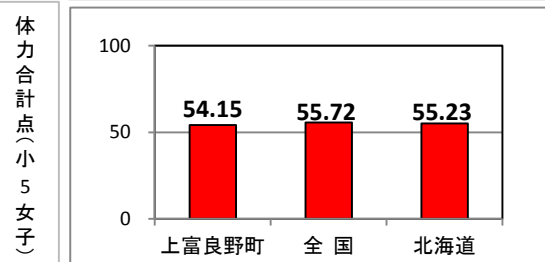
## II 調査の結果

### 1 実技に関する調査

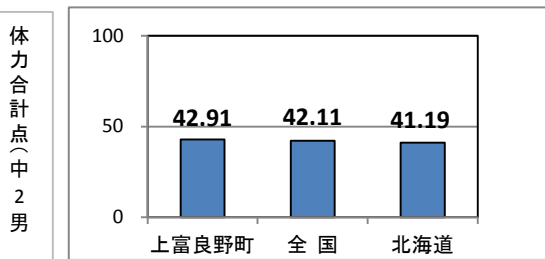
(全国より+2ポイント以上は、大きく上回った)



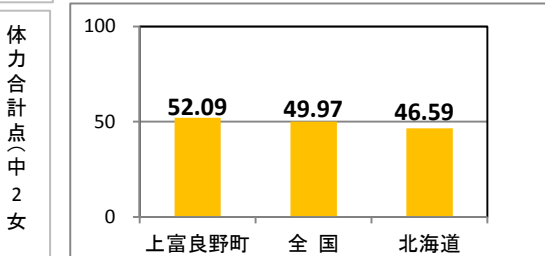
小学5年男子は、体力合計点が全国・全道平均を上回っている。8種目中5種目で全国平均を上回っている。総合評価Aの児童が昨年より4ポイント程度少なく10.6%で、全国の12.5%を下回っている。



小学5年女子は、体力合計点が全国・全道平均を下回っている。8種目中3種目で全国平均を上回っている。総合評価ABの児童が38%で、全国の43.6%を大きく下回っている。



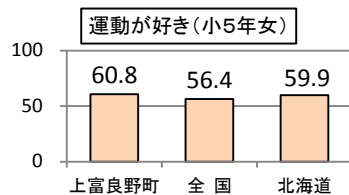
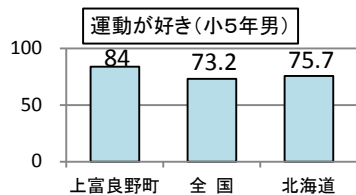
中学2年男子は、体力合計点で全国・全道平均を上回っている。全8種目中5種目で全国平均を上回っている。特に、握力・ハンドボール投げが大きく上回った。総合評価Aの生徒が17.9%で、全国の7.9%を大きく上回っている。



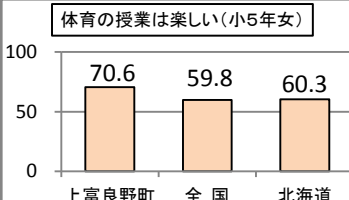
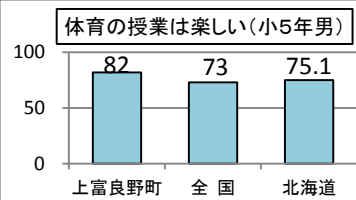
中学2年女子は、体力合計点で全国・全道平均を大きく上回っている。全8種目中、握力・上体起こし・20mシャトルランが全国平均を大きく上回っている。総合評価ABの生徒が75.8%で、全国の62.9%を大きく上回っている。

## 2 質問紙調査

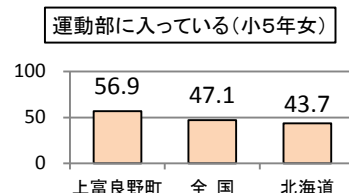
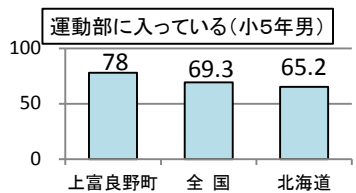
### (1) 小学校



○ 男子は、運動が好きで、大切と考えている。中学校でも運動を続けたいと考えている児童が90%いる。  
女子は、運動が好きは男子に比較すると少ないが、やや好きを含む

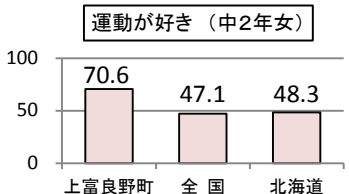
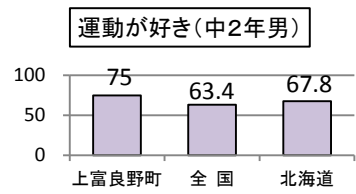


○ 体育の授業が楽しい男子が多い。授業では、目標をもち、助け合ったり役割をはたしている。  
女子は、楽しくないとしている児童が0%で助け合って授業に参加

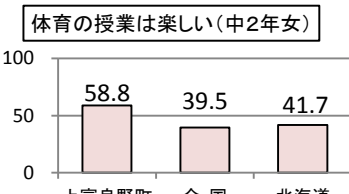
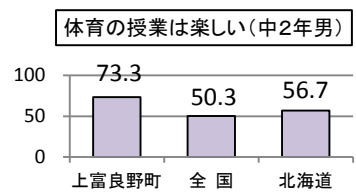


○ 男子は、少年団などに所属している児童が大変多い。  
女子は、少年団などに所属している児童が、全国・全道平均大きく上回っている。

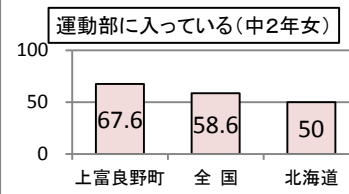
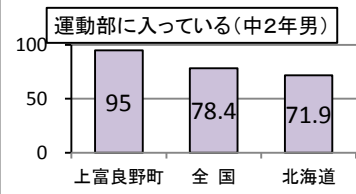
### (2) 中学校



○ 男子は、運動が好きで、大切と考えている生徒が多い。  
女子は、運動が好きが、全国を大きく上回っている。



○ 男子は96%、女子も94%の生徒が授業が楽しいと回答し、全国・全道を大きく上回っている。



○ 男子は、ほとんどの生徒が運動部に加入しているが、女子は、運動部より文化部への加入が多い。運動部等に所属していない生徒は、男女とも少ない。

### 3 今年度の全体傾向等について

◎ 本町の児童生徒は、小学男子・中学男女が体力合計点で全国平均を大きく上回った。また、中学校女子は総合評価Aが全国平均を大きく上回り、体力の向上がみられる。

質問紙からは「運動やスポーツをすることが好き・やや好き」と回答する割合が、男女ともに全国平均を大きく上回っている。日常の運動時間も多く、進んで体を動かす習慣が身についてきている。

小学校における、外遊びやなわとび・マラソン・冬期間の運動機会提供などの体力づくりの取組や、各少年団が計画的に活動していることが体力の向上につながっている。中学校は、目標をもたせた体育科の授業づくりや部活動内容が充実が成果として表れている。

また、小・中学校ともに、基本的な生活習慣や正しい食生活の確立に向けた取組を家庭と連携し推進している。